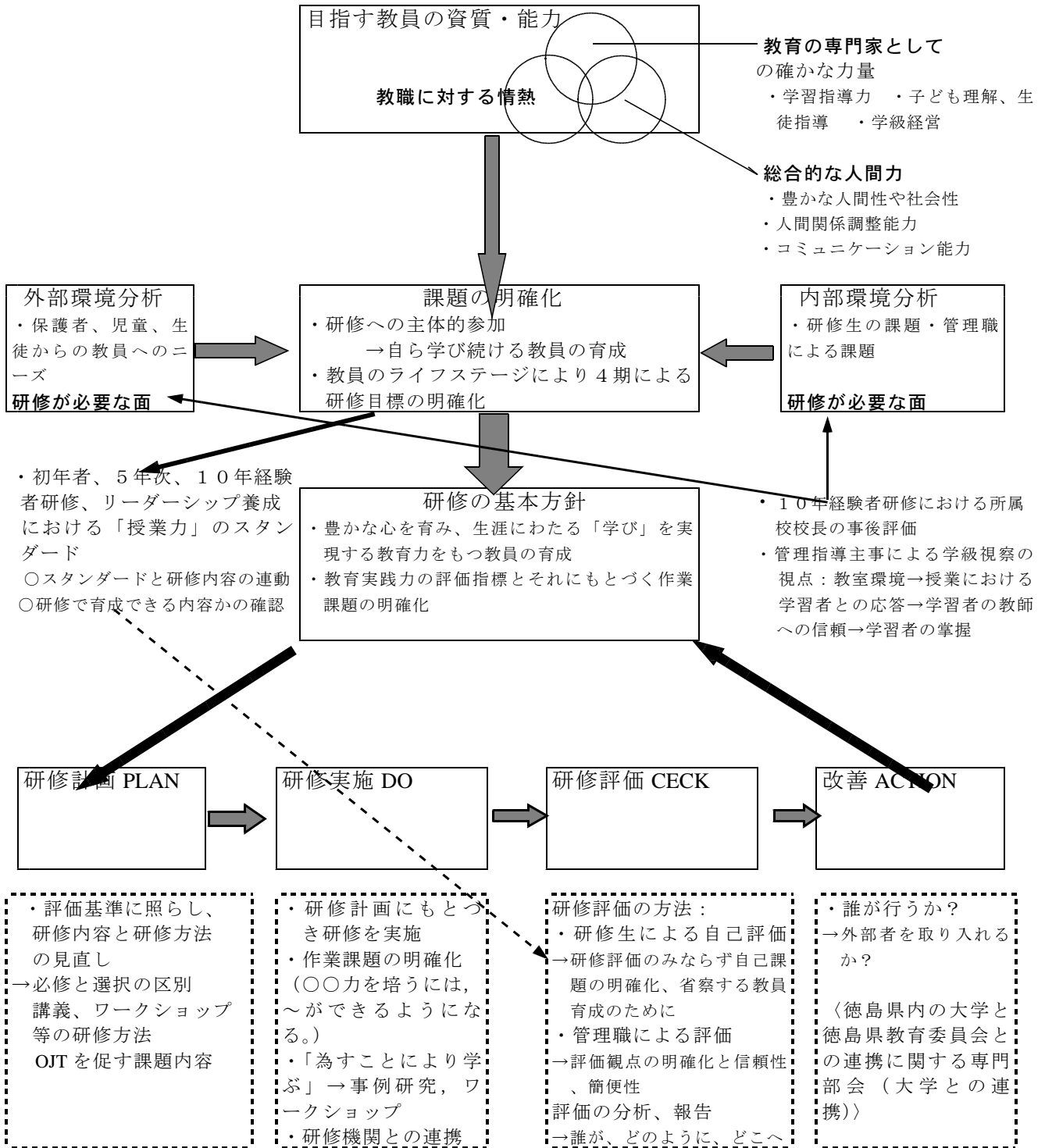


授業力を培う校内研修のあり方 －ワークショップを通して－

梅津 正美（鳴門教育大学）

I. 教員の研修・評価のための基本枠組み



（出所：鳴門教育大学教員研修評価・改善システム開発プロジェクト（主査：梅澤 実）作成）

「授業実践力評価スタンダード（鳴門スタンダード）」

1. 評価項目

授業実践力	評価項目		
I 授業構想力	1. 学習者の把握	1) 学習者の実態把握	1
		2) 学習への構え・ルールづくり	2
	2. 目標の分類と設定		3
	3. 授業構成	1) 教育内容の構成	4
		2) 教材の選択・構成	5
		3) 授業過程の組織	6
		4) 学習法・学習形態の選択・構成	7
	4. 単元計画 (授業計画)	1) 単元(授業)計画の作成	8
		2) 学習指導案の作成	9
		3) 学習評価計画の作成	10
II 授業展開力	1. 基礎的・基本的な授業態度(音声・表情・所作等)		11
	2. 教授活動の構成 と展開	1) 個や集団への配慮	12
		2) 説明	13
		3) 助言・指示	14
		4) 板書	15
		5) 教材・教具の活用	16
		6) 演技・表現性	17
	3. 学習活動の喚起 と促進	1) 授業の流れや分節化への考慮	18
		2) 発問	19
		3) 子どもの発言・行為への対応	20
		4) 学習環境の構成とマネジメント	21
		5) 学習活動への即時的対応	22
	4. 学習活動に対する 評価	1) 形成的評価	23
		2) 机間巡視	24
		3) 学習評価法の工夫	25
	III 授業評価力	自己の教育・社会観, 教育目標, 授業構成論, 指導法に対する省察・評価と授業改善	

2. 段階内容

第1段階	第2段階	第3段階
学部3年コア科目「初等中等教科教育実践Ⅲ」終了時(教育実習開始時まで)に到達していることを求める実践力の段階	学部卒業時(初任者研修開始時まで)に到達していることを求める実践力の段階	学部卒業以降, 10年経験者研修時までにその形成を期待する実践力の段階

「授業構想力評価スタンダード（社会科）」

観点 / 段階	段階 1	段階 2	段階 3
A. 授業構想力			
1. 学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	学習者の社会科の既習内容を理解し、それを授業づくりに活かそうとしている。	個々の学習者の実態(学習意欲, リーダーシップ, 理解度、興味・関心, 社会認識の傾向や社会意識の発達段階など)を把握し, 指導上配慮することを留意事項として具体的に挙げている。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体や個々の学習者に適した学習方法や教材を考慮し, 授業構成の検討に活かしている。 ・学習者が生活する地域社会の特色, 地域の抱えている問題点などを把握し, 授業構成に活かしている。
2) 学習への構え・ルールづくり	授業前や途中に、学習者に、学習への構えや学習に取り組む姿勢をつくるための適切や指示・助言を与えている。	学習を効果的に展開するための構えやルールを、学習者に納得させ理解させて、クラス全体に定着させている。	クラスの特性や個への配慮事項が、学習のルールづくりに活かされている。
2. 目標の分類と設定	目標を、「関心・意欲・態度」, 「思考・判断」, 「技能・表現」, 「知識・理解」の各観点から捉えて設定している。	目標を社会の見方・考え方の形成という観点から捉え, 授業構成の過程と授業展開の実際を通じて検証でき, 授業構成の妥当性を検証したり学習者の評価が可能ないように設定している。	目標を社会の見方・考え方の形成という観点から捉え, 教師の授業評価と学習者の自己評価の判定基準として活用できるように段階的に設定している。
3. 授業構成			
1) 教育内容の構成	学習指導要領や教科書の分析を通して教科の内容編成をつかみ, 単元や主題についての教育内容を知識として整理している。	教育内容を、直接の学習対象以外の社会事象への応用・転移を考慮して, 概念・法則・理論のレベルで捉え構成している。	教育内容を、知識内容としてだけではなく, 知識習得の方法・技能もふくめて総合的に捉え, 相互に関連づけて構成している。
2) 教材の選択・構成	教育内容を反映し, 学習者にとって具体性のある教材を選択し構成している。	問題を発見したり, 仮説の検証や主張の根拠づけに活用できるリアリティある教材を選択し構成している。	学習者に多様な見方や考え方が生まれ, 多面的な学習活動へ展開できる教材を選択し構成している。
3) 授業過程の組織	<ul style="list-style-type: none"> ・導入・展開・終結の流れがある授業過程を組織している。 ・教育内容の習得にむけて, 問いの順序性を考慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実から解釈・理論を発見・探求していく方向へ, あるいは解釈・理論を活用して事実を説明する方向へと授業過程を組織している。 ・授業全体を貫く主発問と補助発問を区別し, それらを系列化して構成している。 ・学習者の答えを想定し, 複数の授業過程を用意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が社会事象から問題を発見・設定し, 資料を活用しながら集団で思考し問題解決していく授業過程を組織している。 ・教育内容や教材の特質, 学習者の実態に即して, 主体的な探求活動を促すように問いの表現や学習の段階を工夫している。

観点 / 段階	段階 1	段階 2	段階 3
4) 学習法の選択・組織	授業の目標・内容に照らして、中心となる学習法・学習形態を選択し展開している。	授業の目標・内容との結びつきとともに、学習者の学習意欲の喚起を考慮して、学習法と学習形態の効果的な組み合わせを考えている。	授業の目標・内容との結びつきとともに、学習者の特性やニーズをふまえて、学習法と学習形態の選択に多様性と柔軟性がある。
4. 授業計画			
1) 単元計画の作成	学習の順次性を考慮して、主題と時間数を割振っている。	目標と結びつけて、単元の各主題、指導過程、時間配分の関係性を明示している。	学習問題に対する学習者の多様な追求過程を考慮し、複線化した単元計画を構想している。
2) 学習指導案の作成	学習指導案の一般的な形式項目を理解し、授業の流れをイメージできるように表現することができる。	教授・学習活動、教育内容、資料・教材を区分して記述するとともに、社会の見方・考え方の形成という目標との関わりがわかるように授業過程を示し記述できている。	社会の見方・考え方の形成に向けて、複線化する学習者の思考展開や学習活動に合わせて学習指導案の形式を選択するとともに、授業過程の意図を合理的に説明できている。
3) 学習評価計画の作成	「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の各観点ごとに、評価活動を計画している。	授業目標、授業構成、授業展開の実際との一貫性のある具体的な評価項目と評価活動・方法を計画し明示している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が取り組む学習問題や学習活動に即して、診断的評価（指導前の評価）、形成的評価（指導過程での評価）、総括的評価（単元終了時のまとめの評価）、学習者の自己評価などの評価活動を適切に選択し計画している。 ・評価のための多様な手立てを工夫している（発言、カルテ、プリント、ノート、作品、ペーパーテスト等）。